

自立を見据えた学力づくり

低学年…自立は言葉から

加印いろえんぴつ 岸本 ひとみ

去年は6年担任、今年は1年担任。端っこ担当の教師人生です。でも、6年生まで、思春期前期末までを見通して、学力づくりを進めていく上では、端っこ担当はけっこういいものです。低学年で自立を見せるって、何だか遠いことのような気がしますが、卒業生を何度も見送っている、低学年時の指導の大切さがよくわかります。

○音声言語と文字言語を統一する

かっこいい題ですが、要するに、話し言葉と書き言葉を一致させることが自立につながるということです。就学時には、日常生活に支障のない程度の、話し言葉を獲得しています。一方の書き言葉については、かなりのばらつきがあります。かたや、2年生の後半程度の力があり、かたや自分の名前程度しか読み書きできない、というお子さんが同じクラスで、国語の学習をして

います。

この差を使って、いろいろな新しい言葉が出てきた時に、語彙の豊かな子どもに、説明をさせます。例えば、ひらがなの「は」を学習したら、

『は』のつく言葉で知っているものを、教えて下さい。」

と投げかけると、

・はっぱ

・はね

・はりせんぼん
が出てきました。

『はっぱ』は、葉のことですね。」

『はりせんぼん』って、どんなものですか。

教えて下さい。」

「うーんとね。ふぐみたいで、とげとげがいっぱいついてる魚です。」

「水族館で見ました。とげとげがいっぱいの小さい魚です。」

というような展開になります。

写真等を提示して、教師が示すのでもいい方法ですが、あえて、他の子どもに説明を求めます。そうすることで、お互いの認識の違いが明らかになることもあるからです。それを整理しながら、少しずつ、語彙を増やしていくような指導をしています。

○書き言葉の特長を指導する

話し言葉は、消えてしまいますが、書き言葉は残っていきます。低学年であっても、手紙、伝言メモ等を書くことで、相手に正確に用件を伝えられることを、いろいろな場面で指導しています。もちろん、ノートに書くことも大切に行っています。

鉛筆の持ち方指導から始まって、運筆、ひらがな、カタカナ、主語述語を整える、などなど。1年生の文字指導はなかなかたいへんです。1年中、書いて書いて、書きまくっているような気がします。

ノートは、入門期は10マス。1学期後半から12マス。1年間でほしい3冊〜4冊を使います。

○場に応じた言葉づかいを指導する

ある年、校長室に「花いっぱいになあれ」の音読を聞いてもらうためにやってきた1年生。

「校長先生は、いらっしやいますか。」

と、たずねたもので、その後大きな話題になったことがあります。1年生が「いらっしやいますか。」と言ったので、職員室の先生方がびつくりしたということでした。

これは、たぶん私の言葉がそのまま反映されたのだと思います。

「○○先生が、来て下さいましたよ。」

「6年生の□□先生は、いらっしやいますか。」(インターホン使用時)

子どもたちも何となく、丁寧な言葉というのは、こういう使い方をするのだと覚えていくようです。低学年では、日々指導する教師が最大の言語環境です。

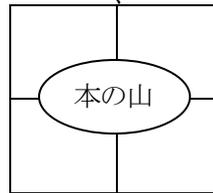
丁寧語を求めるのは、どこに行っても話ができるようにするためです。教室というのは、家庭とは違うひとつの社会だということから、私の場ではため口でもけっこうですが、教室は公の場だということ、早くから教えています。

○読書指導で語彙を豊かに

読書指導も楽しく進めています。毎朝「図書係さん」が選んだ本を一冊ずつ、読み聞かせます。子どもたちは本が大好きなので、先を争って教室に帰ってきます。7・8分の読み聞かせの後、計算タイムにしたり、音読タイムにしたりで、合計12分が朝の学習タイムです。

図書室で本を借りるこ

とも、毎週欠かさずしています。1つのテーブルに4人か5人ですわって、それぞれが書架から取ってきた本を読み始めます



が、読み終わったら、真ん中に置きます。そうすると、そのグループのメンバーが選んだ本10冊程度を、輪番で読むことができます。そのうちで、借りたいと思った本を、貸出手続きして教室に持って帰るのです。

読書は、語彙を豊かにし、表現力も磨きます。特に、絵本の持つ力は大きいです。絵と言葉を結びつけて、イメージ化を図るためにも、低学年の間は、読書の時間を確

保したいものです。

○算数でも、他の教科でも言語化を

算数でも、操作を言語化することに力を入れています。生活科や音楽、図工でも同じです。作品ができたら、その作品について発表会をしたり、鍵盤ハーモニカの吹き方について、発表させたりします。「あのね、鍵盤の上で、ネコの手を作ります。」とか、「糊をつける時は、四角くつけます。」とか、名言集ができそうなくらい、いろいろな表現をしてくれるのが、低学年です。

○一般的な表現も指導する

2年生も後半になると、入門期独特の表現を一般的な言い方に訂正してやらなければいけない時期がきます。国語の教科書も、「のです。」「ですから、・・・です。」と言うように、本格的な書き言葉がでてくるようになると、「四角く」ではなく「辺に沿ってつけます。」と言葉を変えていきます。学年やクラスの実態に応じて、指導する側の教師の言葉が、日々変化していくことが、一番のポイントかもしれません。